

検温の見直し

—業務改善を試みて—

4階西病棟

○西山 利香・文野 和美・志村 敦子

末政 陽子・奥田 満香・田中 加恵

高橋 雅代・平石 愛子

I はじめに

検温は、患者のバイタルサインの一つとして、観察にかかせないものである。現在、当病棟では、2検を基準検温とし、6時、14時に検温を行っている。

従来、6時の検温は、深夜帯の少ない看護要員で、全患者の測定を行っており、ガードマン的記録になりがちなのが現状である。看護要員の少ない時間帯に、ただ測定するだけになりがちな検温を行うよりも、もっと優先して行うべきケアがあるのではないか。また早朝の検温は、バイタルサインが安定し、状態変化の少ない患者にとって、苦痛ではないのだろうか。これらの疑問をもとに、よりよい看護を提供しようと、業務改善を試みたので、ここに報告する。

II 仮 説

1. 6時の検温は、患者にとって苦痛ではないのだろうか。
2. 義務的に、全患者を早朝6時に検温する必要があるのだろうか。

III 研 究 方 法

1期（平成3年5月1日～7月28日）

6時検温のアンケートを作成し、患者に配布、回収（資料1）。

6時検温の基準を作成（資料3，前回研究の申し送り手順に準ずる）。

2期（平成3年7月29日～8月25日）

6時から9時へ、検温時間の変更。検温時間のタイムスタディを実施。体温計を入院時、患者に手渡し、ベッドサイドで管理する。

9時に検温を実施後、アンケートを作成し、患者に配布、回収（資料2）。

皮膚科の検温は、1検として基準作成(資料4)

3期(平成3年8月26日～現在)

皮膚科は、1検(14時)を実施。泌尿器科は、2検(9時、14時)を実施。

IV 結果及び考察

1. 1 期

患者に、6時検温のアンケート調査を実施し、回収率は80%であった。アンケートの結果は、97%が6時の検温のままで良いという回答であり、仮説1に反し、患者は、苦痛に感じていないという結果になった。しかし、入院時より検温は、6時、14時と決められており、これを他の時間と比較することはできず、このような結果が出たのではないかと考えた。

検温の方法については、体温計を自分持ちにしたい15%、無回答73%と、方法についてはあまり関心がみられないようであった。

看護婦の対応については、頼んだ事はすぐ実行してほしい26%、平等に声をかけてほしい15%、ゆっくり話を聞いてほしい9%と、患者とのコミュニケーションの不十分さがあげられていた。

起床時、看護婦に何をしてもらいたいのか、の質問に対しては、歯みがき、含嗽、換気、室温調節、明るい声でおはようの挨拶などの基本的欲求、また、体の調子、容態を聞いてほしい等の意見もあった。

患者が要求していることは、バイタルサインばかりでなく、訴えの傾聴、コミュニケーションという心のふれあいを求めているということがわかった。

以上のことにより、6時に全患者を検温し患者のニーズを満たすためには、看護要員の少ない深夜帯では、時間的余裕がないと考え看護業務内容を見直すことにした。仮説1,2をも含めて、バイタルサインをケアに生かすために、検温時間を、患者が検査等に呼ばれることなく病棟内に在室して、処置が行える深夜の申し送り終了直後の、9時の時間帯が適切であると判断した。

2. 2 期

6時の検温を9時に変更し、患者のアンケート調査を実施した(資料№3)。1期のアンケート結果は、97%の患者が、6時の検温でいいと答えていたが、実際に9時検温を実施してみると、67%は、9時の検温で良いという回答が得られた。また、朝ゆっくり眠れる、散歩に行ける等の肯定的な意見があった。

朝、起床時の看護婦の対応についてどう思うか、という質問に対しては、頼んだことがすぐ実行してもらえるようになった。やってほしいと思っていたことをしてくれるようになった等を、合わせると、35%という結果であった。その他は、以前と比べると看護婦の対応が良く気持ちが明るくなり、笑顔がうれしいという意見もあった。

以上のことにより、仮説1が立証されたのではないかと考える。

そこで、看護婦自身は、6時から9時に検温を変更し、どう思っているか、どのように業務時間が改善されたのか、タイムスタディをとった。当病棟は、夜間看護業務は、2名で行われ泌尿器科担当看護婦と、皮膚科担当看護婦に分かれている。

泌尿器科担当看護婦が、6時の検温の基準に従い検温を行うと、測定患者数は、平均10名となり、要した時間は33分、皮膚科担当看護婦が測定した患者数は、平均5～6名となり、要した時間は20分であった。この時間は、以前全患者の検温に要した時間の、約1/2～1/3の時間に短縮された。時間的余裕ができ、訴えの傾聴、コミュニケーションなど心のふれあいの時間が多くもてるようになった。と同時に、洗面介助、歯みがき、含嗽、整髪、排泄介助、採光、落屑を伴う患者の寝具の交換などのケアの充実がはかれるようになった。

ナイチンゲール¹⁾の『看護覚え書』に、「看護とは、一患者の生命力の犠牲を強いることは、最小限度に抑えるようにしながら、新鮮な空気、光、暖房、清潔、静けさを与えることを……意味すべきである」と、環境の保持を強調されている。義務的に全患者を検温して時間を要するより、状態に応じた観察、ケアを行うことによって、患者1人、1人のニードが満たされ、個別性のある看護になった。このことにより仮説2が裏付けられるのではないかと考える。

患者は、体温計を本人持ちにすることによって、測定したい時、いつでもすぐ測れてよいとの意見が多く、患者自身が、体温計の管理を行うようになったが、体温計の破損数は以前と変化はない。また、看護婦は、体温計を配布する時間が、約10分省略できた。

次の段階として、皮膚科の状態変化の少ない慢性疾患の患者に対して、2検が必要かと疑問を感じた。そこで、6時、14時の2検の場合の時間間隔は、8時間で、9時、14時の時間間隔は、5時間であり、時間差があることに気づき、10名に、9時と、14時で体温変化を調べてみた。結果差は、0.6℃未満であった。このことをも含め、皮膚科医師との話し合いを行い、1検施行に向け、基準を作成し、試みることにした。泌尿器科は、手術目的で入院する患者が多く、検査、手術前後の、バイタルサインが必要なため、現行通り9時と14時の2検とした。

3. 3 期

皮膚科1検の基準に従い、14時検温を実施してみたが、結果は、治療上の問題もなく経過している。6時に、検温は行わないが、従来通り巡視して、記録を行い、患者とのコミュニケーションが充分とれるようになり、精神的援助ができるようになった。

アイダ・ジーン・オーランドの意見でも、看護婦が患者を援助するのは、患者が、何らかの医師の治療や、監視下にある場合に、患者の身体的、精神的快適さを、できるかぎり確保するためであると述べている。

9時に朝の申し送りが終わると、直ちに患者の側に行き、環境整備を行いながら、観察情報収集ができ、率先して、軟膏処置の介助等が行えるようになった。

V おわりに

今回、検温時間を変更した事により、深夜看護婦が、時間的、精神的余裕を持つ事ができ患者のニードを満たせるような看護に、少しでも近づけた。また、日勤看護婦は、9時に観察を行うことで、受け持ち患者の情報収集が早くなり、ケアの充実につながった。

これから、増々、複雑化、高度化する医療の中で、私達の看護業務を改善する事により、時間のマネジメントをすることが大切である。と同時に、看護婦各々が、問題意識をもちその患者に最も適切な情報収集を行い、アセスメントすることによって、患者個別の看護計画を立案、実施、評価していくことが必要である。

引用・参考文献

- 1) ナイチンゲール著・小玉香津子訳：看護覚え書，現代社，1968.
- 2) 看護ケア再検討グループ：バイタルサイン(2)バイタルサインはナースの親友，1985.
- 3) 岡安大仁・道場信孝：バイタルサイン，医学書院
- 4) 日野原重明他：バイタルサイン，そのとらえ方とケアへの生かし方，医学書院
- 5) 都留伸子訳：患者ケアのマネジメント，HBJ 出版局
- 6) ライト州立大学看護理論検討グループ，南 裕子他：看護協会出版会

【資料1】

患者の皆さんへ

(複数回答あり)

現在、4階西病棟では、午前6時と午後2時に検温を行っています。発熱や高血圧のために薬を飲んでいる人、手術後の患者さんについては、午前6時と午後2時以外にも検温を行っています。さて、今後よりよい看護をするためにアンケートをすることになりました。ご協力をお願いいたします。

I 検温は何のために行われていると思いますか。

- 体の調子を調べるため 患者の体の状態, 精神面を見る
- 発熱の有無を知るため 健康のため 病気を管理する
- 病気に対する現状把握と早期治療のため 患者の病状の参考
- 患者の容態を知り治療の資料とするために患者自身が自己の体調を知ることができる

II 午前6時の検温についてお答え下さい。

1. 現在行われている午前6時の検温についてどう思いますか。○印をつけて下さい。

- 1) 今のままでよい 97 %
- 2) 変えてほしい 3 %
- 3) やめてほしい 0 %

2. 上の質問で2), 3)と答えた方は次の質問にお答え下さい。

1) 時間については、どう思いますか。具体的にお答え下さい。

検温は6時ですが、実際は5時半で早いと思う。

2) 方法についてはどう思いますか。

- ① 体温計を自分で持っておきたい 15 %
- ② 事務的にはしてほしくない 6 %
- ③ 熱, 脈など測定せずにじっくり話を聞いてほしい 6 %
- ④ その他, 意見があれば具体的に何でもお書き下さい。

無回答 73 %

3) 看護婦の対応についてはどう思いますか。

- ① ゆっくり話を聞いてほしい 9 %
- ② 頼んだことは、すぐ実行してほしい 26 %

- ③ 平等に声をかけてほしい 15 %
- ④ 言葉使いに気をつけてほしい 0 %
- ⑤ 眠いのでさっさとしてほしい 3 %
- ⑥ その他、意見があれば具体的に何でもお書き下さい 12 %
 - ☐ 親切でうれしい 感謝している
 - コミュニケーションがもう少しあれば良いと思う
 - やさしく声かけあり、やさしく笑っています

【資料2】

(複数回答あり)

I 朝9時の検温について

1. 朝9時の検温についてどう思いますか、○をつけて下さい。

- 1) 9時の検温のままでよい 68 %
- 2) 6時の検温の方がよい 19 %
- 3) その他、意見があれば具体的に何でもお書き下さい

☐ 6時に起きているのでどちらでもよい

朝早くから散歩ができるから9時の方がよい

検温がない方がよい

無回答 13 %

2. 時間についてどう思いますか

- 1) 検査や処置に呼ばれ、病室にいないことが多い 2 %
- 2) 頼みたいことがあっても忙しそうで言いにくい 13 %
- 3) 朝ゆっくり眠れるようになった 46 %
- 4) 頼みやすくなった 16 %
- 5) 9時にも検温でしばられて、苦痛である 3 %

無回答 20 %

3. 体温計を自分で持つようになってどうですか

- 1) 体温計を壊しそうでいや 13 %
- 2) いつでも測りたいときに測れてよい 65 %
- 3) 看護婦と接する機会が少なくなって(体温計配布時)、さびしい 3 %

- 4) 看護婦と接する機会が少なくなり、わずらわしくなくてよい 3 %
 5) その他、意見があれば、何でもお書き下さい

Ⅱ 朝、起床時の看護婦の対応についてどう思いますか。

- 1) 頼んだことは、すぐ実行してもらえるようになった 26 %
 2) 歯みがき、洗面もしてもらえるようになった
 3) あまりかわらない 33 %
 4) 今までやってほしいと思っていたことをしてくれるようになった 9 %
 5) その他、意見があれば、具体的に何でもお書き下さい

☐今のままでいいです

先生方、看護婦さんの対応はよく、気持ちが明るくなります。

全ての看護婦さんの笑顔がとてもうれしい

看護婦さんのご苦勞がよくわかります、感謝してます

Ⅲ 朝、昼、の検温についてご希望があれば何でもお書きください

☐割ったらこわいので体温計は配ってもらう方がよい(全盲の患者より)

昼の検温を13時にしてほしい

時間を正確にしてほしい

Ⅳ 朝起床後、看護婦に一番何をしてもらいたいですか。

☐お茶を早目に持ってきてほしい 歯みがき、うがい

換気してほしい 室温調節をしてほしい

明るい声で「おはよう」を 容態を聞いてほしい

当日の治療についてわかっていることを教えてほしい

【資料3】

泌尿器科 2検(9時 14時)

皮膚科 1検(14時)

便・尿回数(9時) 食事摂取量(朝・昼・夕)

《朝6時に検温をする患者の基準》

手術当日の患者

特殊検査当日の患者………アンギオ, 肝, 腎生検等

手術後の患者………術後3日を目安とする

前日一度でも, 37.5℃以上の発熱があった患者

身体の異常を訴え, バイタル測定が必要と考えた患者

血圧測定の指示(4検)ある患者

前日の日勤, 準夜帯で血圧高値を示し, 続いている患者

【資料4】

《皮膚科9時に検温をする患者》

膠原病患者, または疑いのある患者

パルス療法中, DCP塗布中患者, DAV療法中患者

入院後, 3日間までの患者

病状悪化, 要注意患者, 手術患者, CRPの上昇・赤沈亢進の患者